

シンポジウムでは、参加者からの質問を受け、後藤先生、石川先生
に対談していただきました。



！ 自分と違う視点の価値観を大切にする



- 景観の良し悪し、好き嫌いは主観で評価されるものです。
- 自分と違う視点、評価を持つ人と一緒に景観を眺めたり、評価したりすることで、新しい気づきが生まれるかもしれません。

- 調布市の景観は、「調布らしさ」という言葉でひとくくりにするには、多様すぎます。どんな景観を良いと思うか、どんな景観にほっとするかは人それぞれ。
- 他の人の良いと思う景観を知り、新しい価値を受け止める、多様性を自覚することも大切です。



Q 豊かな景観・貧しい景観とは？



- 多様性がある景観は「豊かな景観」だと思います。
- 景観はいろいろな人がいろいろな思いで、前の人のデザインを尊重しながら上書きしていくもの。それが多様性や持続性につながると思います。

- 例えば手づくりの石積みの塀は崩れやすいですが、こまめに直すことで動き続けている景観になっています。人の手で手間をかけることも、豊かな景観を生み出しています。



Q 調布市民の景観への愛はどこから？



- 調布市の骨格でもある京王線は、甲州街道と宿場町に沿って作られました。見えない歴史を感じ、景観への愛着が育まれているのかもしれません。「愛」が生まれた瞬間は、もしかしたらずっと昔から。

- 駅名と甲州街道の交差点名が対応していて、地名や地理に親しんでいることも、愛着につながっていると思います。



景観まちづくり 市民検討会のご案内

次回の市民検討会から、「駅周辺の景観」
をテーマに検討を始めます。

第2回市民検討会

日にち 令和元年 10月 11日 (金)
時間 午後7時から
場所 たづくり12階大会議場

市民検討会の
参加者を
募集しています！

調布市では、景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせをしていきます。

発行：調布市都市整備部 都市計画課 景観係

Tel：042-481-7746 Fax：042-481-6800 Email：tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp



第47号
シンポジウム
特別号

ち よ う ふ 景 だ よ り 観 り

令和元年9月30日発行



本号のめぐり

- 景観まちづくりシンポジウムを開催しました
- [シンポジウム] 対談&市民参加ディスカッション
- 景観まちづくり市民検討会のご案内



景観まちづくりシンポジウムを開催しました

日時：令和元年8月30日（金） 19時から21時 場所：調布市文化会館たづくり12階大会議場

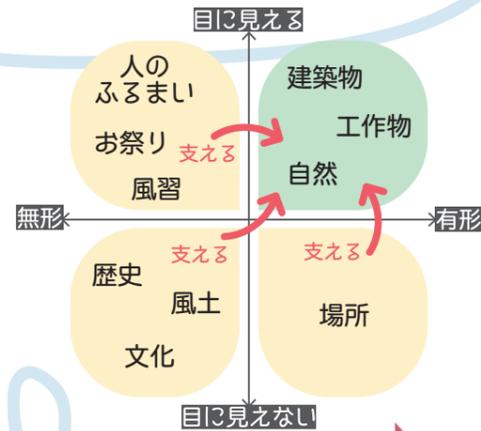


後藤春彦氏
早稲田大学理事
早稲田大学創造理工学部教授
調布市景観審議会会長

『景観の関係性を読む』

景観は目に見えないものに
支えられている

- 景観は、目に見えないものとの関係性によって成り立っています。
- 「目に見える・有形」のものを景観やデザインの対象と捉えがちですが、人のふるまいや歴史・文化など、様々な要素が景観を支えています。
- 物理的なランドマークをデザインするのではなく、景観を支えるものを知ること、その関係性を整えることが、景観を良くしていくために重要です。



調布市の「ほっとする」景観

- 調布駅前から見る夕焼けは、街並みのシルエットと光が、自然と人工のコントラストのようで綺麗でした。街並みの間から見える青空や夕焼けも、「ほっとする」と感じる景観のひとつだと思います。
- 建物や風景だけでなく、その場所を歩いている人の姿やふるまいも、景観をつくっています。

〜これまでとこれから〜

調布の景観

『市民参加と景観まちづくり』

場所の悪口を言ってはいけない

- いろいろな人が集まって景観を考えるワークショップなどをすると、課題や良くないところがたくさん出てきてしまいます。
- どんな場所でも、何か引き出せば良いものが眠っています。
- 悪いところを探すのではなく、一旦見方を変えて「褒める」ことを考えると、新しい発見ができるはず。ワークショップなどでみなさんと意見交換することも、いろいろな考え方を知るきっかけになるかもしれません。



石川初氏
慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科教授
調布市景観審議会委員
調布市景観アドバイザー

子どもに景観を伝えてみよう

- 平成29年度から、学生と一緒に景観まちづくり市民検討会を手伝ってきました。子どもに深大寺の景観を伝えるための「景観カード」や、国分寺崖線の模型を作製しました。
- 子どもに景観を伝えるにはどうしたらよいか、わかりやすい言葉や表現を使って考えてみましょう。



▲市民検討会で作製した景観カード

私が見た調布の景観

- 市内で行ったことがある場所を航空写真に重ねてみると、一部しか行っていないことがわかります。
- いろいろな場所を見た気がしていても、実は道路沿いの線でしか市内を目撃していない、限られた場所しか見ていないものなのです。

会場風景



景観まちづくり市民検討会のメンバーも含め、多くの方にご参加いただきました。

上空から眺める景観 大地から眺める景観

- 「景観」という言葉は、もともと地理学の分野で使われ始めたものです。
- 景観は、上空から眺める目線（バードビュー）と大地から眺める目線（ストリートビュー）の両方から成り立っており、どちらの目線も景観を考えるうえでは重要です。
- 人間は、両方の目線を頭の中で合成して考えることができます。目の前に広がる「風景」と、目に見えない歴史や風土といった「地域」を合成して考えることが「景観」なのです。

映像作品上映

早稲田大学大学院の学生が作成した、調布市に関する映像作品を上映し、石川先生に解説していただきました。学生のみなさんが見つけた調布市の魅力や、見慣れた場所の新しい発見が詰まった力作がいっぱいです。



展示



市民検討会で作製した国分寺崖線の模型や、深大寺の景観マップを展示しました。ご来場のみなさんには、調布市の地形の特性などを興味深く見ていただきました。